51.6
000013

昔の眼

長田秀雄

むかしより今に
ゆかしき思出。
鏡かつきかな
鏡の網とも。サンタマリヤ。

これは祖父も好しと申すと作り。三百年前の外国人の異色情調を味ったしものいま残ってゐる神秘の古切れの味の一つである。

南方十字星の光あるいは深い万里の潮をこうすると見る宇宙の空を見る幾十日、ゆく風に揺っては。ゆるやかに長崎の湾にやって来る黒船の姿こそ、当時の日本人にとって一国。胸に描かす怪奇な姿は未だ見なかったか。

長崎は当時の日本の眼であった。長崎と云ふ眼によってゼスイツトやドミニカン派の宗徒の風俗・儀礼を知ることを許され目

長田秀雄用箋

000014

本人は、かつて忘れられなかった朝鮮ましても決豊臣秀吉の朝鮮、忽ち、聖母讃の出現を起したのも無理はない。

古風な南蛮風の医術天文学や科学も此頃に入ってきた、伴天連伊留満の徒は、青瑠璃のやうな眼で、凝っと見つめた人の話を見ながら、彼等の科術を熱心に説きすすめた。

十字架、念珠、渾天儀、遠眼鏡、土圭などを珍らしい紀念品。今日、私たちが、ラジオや、トーキーをみるやうな心持で、驚嘆した。

禁制の書物を、ひそかに唐船の船員から求め信ずる手に入れた学徒の喜び―さうそ知もろうと、ちっとも変らなかったであらう。

伝説めいた天草四郎の下に戦死した割窟しためんか聖医まかの勇士たちは、朝鮮天主教の教を利用して民心を集めることが出来た―三百年前の其処人も、其の今の青年を大したものはない。

長田秀雄用箋

066015

長田秀雄用箋

000016

色の浅黒い放肆な女（たち）を愛する。

（未明白）

（新長崎風景の二）

（6 2. 4. 9）

長田秀雄用箋